

1. 評価結果概要表

作成日 2008年4月21日

【評価実施概要】

事業所番号	2671900252
法人名	社会福祉法人清和会みわ
事業所名	グループホーム すこやかの家
所在地	〒620-1424 京都府福知山市三和町友渚小字大原野79番地132 (電話) 0773-59-2525

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成20年3月26日	評価確定日	平成20年5月10日

【情報提供票より】(平成19年12月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 2 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	8.41 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋
	1階建ての 1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	17,500 円	
敷金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(67500 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有(退去時)	
食材料費	朝食	344 円	昼食	516 円
	夕食	573 円	おやつ	90 円
	または1日当たり 1433 円			

(4) 利用者の概要(2 月 22 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福知山市民病院、綾部市立病院、ルネス病院、瑞穂病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都市内に多くの病院や介護保険施設を運営しているシミズ病院グループが三和町から要請され、自治会から土地を提供され、社会福祉法人を立ち上げて、2005年9月から特養とともに運営を始めたグループホームである。少し高台にあり、あたりの山々が四季折々の風景を見せてくれる抜群の自然環境にある。開設の経緯からも地域の理解と協力は大きく、ボランティアの出入りも多い。法人もふくめてサービスの向上への意欲が高く、昨年の訪問調査時にもまして、一段とグループホームらしい実践が実現している。力のある女性管理者は暖かな人柄でやわらかい対応をしており、30代から60代までの職員は意欲と自発的に勉強するなどの向上心があり、利用者を深く知っている人が多い。毎日の暮らしを構成する介護計画が作成され、介護計画を中心にすえたケアが実践されている。利用者はホームの傍の畑で作業したり、お互いに世話をしあったりして、元気に自由に暮らしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘された点で、陶器の食器、箸置きやランチョンマットの使用、木製の表札をつくる、歯科医との連携、介護計画の見直し、トイレにはペーパータオルの設置等、改善への取り組みがめざましい。前回の評価は職員のやる気を喚起したと考えている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の受審にあたって自己評価は担当者を中心に行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	要綱が作成され、利用者、家族、地域住民、福知山市高齢福祉課職員、福知山市社協、居宅ケアマネジャー、法人の元副理事長等に委嘱状を出し、メンバーとなってもらっている。会議は2カ月に1回開催され、議事録も残されている。会議で出た意見により、傾聴ボランティアが訪れてくれるようになるなど、サービスの改善につながっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ユニットピアささやまへ一緒に出かけたり、敬老祝賀会で食事を一緒にし、二胡の演奏を聴いたり、畑で採れた野菜を使つての鍋パーティなどをして、家族を招待しているが、こういった家族交流会では、「こんなにおいしいものをいただいているのですね」と、家族からの嬉しい声が聞ける。ホームの運営にたいする意見は出ていない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	ホームは小高い丘の上であり、地域住民が来訪することは少ないが、ホームの利用者が積極的に出かけている。同一敷地内にある特養もふくめた施設が開催する夏祭りには大勢の地域住民が訪れる。ホームの利用者は小学生の来訪や小学校の運動会への参加、中学校の文化祭の見学などの交流をしている。今後は古い着物地を使って利用者が作った作品を近くの温泉旅館で販売したいと考えている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をふまえて、グループホームの理念は「今までの生活歴を大切に、その人らしく生きるための支援をする」として、パンフレットに明記されている。これは開設後1年たったころから、職員が話し合いを続け、決めたものである。自らが決めた理念を誇りとするために、ホーム内にも掲げることが期待される。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の理念に付随して、宣言「他の方と比べるのではなく、個性あふれる一個人として暮らしていただく」、方針「個別のケアを統一の思いでホーム全体で支援する」ということが決められており、日常の業務をこの宣言と方針にしたがっておこなっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは小高い丘の上であり、地域住民が来訪することは少ないが、ホームの利用者が積極的に出かけている。同一敷地内にある特養もふくめた施設が開催する夏祭りには大勢の地域住民が訪れる。ホームの利用者は小学生の来訪や小学校の運動会への参加、中学校の文化祭の見学などの交流をしている。今後は古い着物地を使って利用者が作った作品を近くの温泉旅館で販売したいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の受審にあたって自己評価は担当者を中心に行っている。前回の評価で指摘された点で、陶器の食器、箸置きやランチョンマットの使用、木製の表札をつくる、歯科医との連携、介護計画の見直し、トイレにはペーパータオルの設置等、改善への取り組みがめざましい。前回の評価は職員のやる気を喚起したと考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	要綱が作成され、利用者、家族、地域住民、福知山市高齢福祉課職員、福知山市社協、居宅ケアマネジャー、法人の元副理事長等に委嘱状を出し、メンバーとなってもらっている。会議は2カ月に1回開催され、議事録も残されている。会議で出た意見により、傾聴ボランティアが訪れてくれるようになるなど、サービスの改善につながっている。		

京都府:グループホーム すこやかなの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福知山市の担当者とは相談などに対応してもらっている。京都府北部地域グループホーム管理者会議に参加しており、情報交換している。福知山市主催の市民講座などは開催されていない。	○	グループホームにたいする理解、認知症に対する理解等の市民講座の開催や、在宅で介護している人たちへの介護相談や介護教室を市が主催して開催するなかに講師などで協力し、当ホームのもっている力を地域貢献する機会が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は多い人は毎週、少ない人でも半年に1回あるので、金銭管理の報告や状況報告をしている。職員異動については退職の場合は報告していない。広報誌『グループホームすこやかなの家』を年4回発行しており、そのなかで職員紹介をしている。また年4回の家族交流会では一緒にの外出を楽しんだり、鍋パーティをしたりしており、毎回ほとんどの家族が参加している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニットピアささやまへ一緒に出かけたり、敬老祝賀会で食事を一緒にし、二胡の演奏を聴いたり、畑で採れた野菜を使ったの鍋パーティなどをして、家族を招待しているが、こういった家族交流会では、「こんなにおいしいものをいただいているのですね」と、家族からの嬉しい声が聞ける。ホームの運営にたいする意見は出ていない。	○	開設後まだ日が浅いこともあり、また家族交流会の開催などもあり、家族は苦情や意見はないと思われる。今後ホームが直面するさまざまな困難な事態や日常の運営などにも協力していただけるように、さらに信頼関係を形成していくなかで、家族の思いを引き出す工夫が期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人としてはグループホームでの職員と利用者の「なじみの関係」を重視しており、法人の都合による異動は避ける方針である。ただグループホームの介護があわない職員がいることも否めないと考えている。退職を避ける工夫としてはシフトの調整、じっくり話を聞くなどをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画が策定されており、実施されている。救急救命やAED対応などの緊急対応、感染症、認知症などの内部研修、グループホームケア、リハビリテーション、リスクマネジメント、精神障害、アクティビティ、認知症ケアなどの外部研修が受講されている。資格取得にたいしても勉強会の開催などで支援されており、ケアマネジャー、認知症ケア専門士、介護福祉士等が挑戦されている。個々の職員の課題についても今後は検討することが期待される。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や「グループホームかたらいの家(船井郡八木町)」「グループホームみやま(南丹市)」等とは、管理者は交流しているが、職員の交流はできていない。	○	職員が他のグループホームを訪問して、生活の流れを見たり、その職員と交流することは、自分の業務の振り返りとなり、また自分のホームの長所と弱点を知ることになり、得るものが大きいので、積極的に取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症対応型デイサービスを利用していた人の申込が多い。見学や試し利用に対応している。3泊4日で利用して2日帰宅ということを繰り返してなじんでいった人もいる。利用が始まるなるべく早くなじんでもらうためにその利用者の横に職員が必ずついてるように、ひとりにしないようにしている。また家で使っていたものをもってきてもらったり、家でしていたことをしてもらったりする。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が職員に教えることに生きがい、喜びをもってもらうように、職員は心がけている。畑の作物の苗をいつ植えるか、野菜の調理法、つるし柿や切り干し大根の作り方、子育てのことなど、学ぶことは多い。また戦後子どもを育てるとき、食べ物がなくて苦労した思い出話にはもらい泣きしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と家族から最初の聞き取りをおこなっている。簡単な生活歴、病歴、ADL、家族構成、住宅環境、性格、介護保険のサービス利用情報などが収集されている。	○	利用者の生活歴や趣味・嗜好の記録が少ないケースがある。最初の訪問面接で聞き取れなかった内容も、担当職員は生活のなかで利用者の話をよく聞いているので、記録に残すことが望まれる。記録は利用者を深く知ることにつながり、職員間の情報の共有化がはかられる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用の申込があると管理者とケアマネジャーが訪問面接し、調査表を記入している。アセスメントをふまえて、本人や家族の意向に基づいて、ケアマネジャー、介護職員、看護師、管理者の4人で介護計画を検討し、案を作成したのち、グループホーム会議にかけて決定している。会議においては職員から活発に意見が出されている。介護計画は身体面のみならず、毎日の暮らしをつくっていく内容となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3カ月から6カ月で行っている。ケアプラン実施チェック表が介護計画の項目ごとに毎日記録されているが、観察や考察は書かれていない。一方、個人生活記録票は職員の観察が書かれているが、介護計画の項目にそったものではない。介護計画の見直しの際に評価が記録されていないが、新たなアセスメントは行われている。	○	介護計画の見直しにあたっては、計画の評価が必要となり、その根拠となるのは毎日の記録である。個人生活記録票を介護計画の項目にそって、観察、考察を記録することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のかかりつけ医の受診は家族にお願いしている。理容院、美容院へは希望があればいきつけの店に同行したり、また巡回してくるバスの美容院、理容院を利用している人もいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には家族に同行をお願いしている。歯科医は往診してくれる医師がいる。認知症専門医との連携が期待される。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての方針の明文化やマニュアルはないものの、家族の希望により、最期まで看取った経験がある。職員は不安があったが、最期を送ったときには充実感をもっている。特養の嘱託医と看護師の協力が得られる。	○	ホームとしての方針を明文化し、利用者や家族の意思確認を行うこと、マニュアルを作成するとともに、職員の研修を実施することが望まれる。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護の現場でのプライバシーには十分注意しており、とくに言葉かけには気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者のペースを尊重して支援したいと考えているが、職員数の関係で希望に添えないときがあることを反省している。起床も就寝も利用者の自由である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の希望を聞くとおすし、すきやき、カニ等があがってくる。食材は予め注文し、配達されるが、時には利用者と職員が買い物に出かけることもある。高齢者の食べ慣れた和風献立である。外食は毎月希望を聞いて出かけている。レストランで食事のあと温泉に入って帰ってくることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望する人には毎日の入浴を支援しているが、少ない人でも週に2回を心がけている。マンツーマンの同性介助をしている。しょうぶ湯やゆず湯も楽しまれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、配膳、味付け等の食事の支度、洗濯物干し、洗濯物たたみ、玄関表の掃除、新聞を取り込む等の役割が果たされている。縫い物、編み物、生け花、体操、折り紙、塗り絵、ボール遊び等をその日の気分で行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日のように散歩や買い物に出かけている。少ない人でも週に2回の外出を心がけている。カラオケや外食、遠出は毎月行っている。太秦映画村、健康ランド、亀岡のコスモス園、観音温泉、菖蒲の花見物等々に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、裏口、ウッドデッキ等、すべて施錠されていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器、通報機、感知器は設置されており、消防計画がたてられている。年2回の避難訓練のうち1回は夜間想定でおこなっている。防火管理者と備蓄の設置、地域の協力の話し合いがまだ行われていない。	○	防火管理者の設置、最低3日分くらいの備蓄の準備等が望まれる。また、地域住民が災害時に協力してくれるような話し合いを行っておくことが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量と水分摂取量の記録は残されている。毎日の献立のカロリー値は記録されている。できれば月に1回くらい、管理栄養士に献立の点検をしてもらい、カロリー値と栄養バランスなどのコメントを残しておくことが期待される。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に親しみやすい表札、入ると両側に居室があり、中央は居間兼食堂、その奥が全面ガラス窓で、ウッドデッキと畑があり、すぐ傍の山の木には鳥が訪れる。居間には畳コーナーがあり、ホームコタツがおいてある。廊下の隅には火鉢に炭を入れている。本棚には童話、水槽に金魚が泳いでいる。天井が高く、壁にはタビストリーがさがっている。雛人形、八重垣姫の人形、大きなぬいぐるみ、わらぞうりの飾り等々、この土地らしいものが置かれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋間で、ベッド、洗面台、枕頭台が備え付けられている。タンス、衣装ケース、椅子、テレビ、写真や絵の額、人形等、利用者が使い慣れたものを持ち込んでいる。		